

平成27年度 第2回五條市総合教育会議議事録

日時：平成28年1月25日（月） 午後1時30分から

場所：五條市役所 議会委員会室

出席者：・太田好紀市長
・寒川英明教育委員会委員長
・大西修二教育委員会委員長職務代行者
・井本誓晃教育委員会委員
・井田栄子教育委員会委員
・堀内伸起教育委員会委員（教育長）

【事務局等】

・近井教育部長
・福塚市長公室長
・松井教育総務課長
・竹林学校教育課長
・中本生涯学習課長
・上垣子どもサポートセンター所長
・涌本文化財課長補佐（文化財課長代理）
・水本企画政策課長

1 開会（議事進行 福塚市長公室長）

2 太田市長挨拶

本日、第2回五條市総合教育会議を開催いたしましたところ、皆様方には、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。教育委員の皆様方には、平素より、生徒児童の教育の充実・発展、健全育成のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、多様化、複雑化する現代社会にあっては、困難な教育問題や社会課題が発生する事案が全国的に増加しており、「人づくり」、「人材育成」の大切さが叫ばれる中、少子化の進行、人口減少社会を迎え、私が目指しております「住んで良かったと思える元気なまちづくり」には、教育環境のハード面ソフト面ともに充実していくことが、大変重要と考えているところであります。

本日は、学校教育における実態と改善に向けた取組、学校適正化の進捗状況、

及び五條高等学校賀名生分校魅力化推進事業等についての報告、ご協議を予定しております。

今後とも「総合教育会議」という新たな枠組みのもと、これまで以上に教育委員会と市が連携・協力し、未来を担う子ども達のために、闊達な議論を交わし、より良き教育の方向性を見出すことができますことをご期待申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

3 報告案件

(1) 五條市の学校教育について

【報告】竹林学校教育課長

市内の小中学校の学力、体力等について全国、奈良県のデータと比較し説明

【意見】大西委員長職務代行者

- ・データの見方としてほぼ同じ生徒達が、成長と共にどうなったのかという、そういう見方も出来るのではないか。いいもの持っていた子を後押しする、そうでもなかった子らを教育の結果伸ばすという両方を目指していかないといけない。

【回答】竹林学校教育課長

- ・母集団が年度ごと当然違うので、調査した子供達が再度調査した時にどういう状況になってるのかということも十分に見ていかないといけない。そういった部分についても今後いろいろな報告をさせていただきたいと考えている。

【意見】寒川委員長

- ・大西委員が言ったような見方をすると、小学校で出来ていた子が中学校に入ってから出来なくなっているという例があるように思える。対策を考える必要があるのではないか。

【補足説明】堀内教育長

- ・年度により問題の内容がだいぶ変わったように思う。ただ、平成28年度の調査においてどのような結果になるか興味を持って見ていきたい。

【質問】井本委員

- ・体力の部分について、平成25年度から上がってきてその後、急に落ちているが、落ちる原因はあるのか。

【回答】 竹林学校教育課長

- ・ 県の平均ポイントを超えているか、超えてないかというところでグラフにしている。奈良県において体力が課題というところで、力を入れており、五條市の方も上がっているが、それ以上に県のポイントが高くなっているため、結果的に平均を下回ったということ。急激に子供達のその体力が落ちたということではない。

【質問】 井本委員

- ・ 県の上昇に五條市が追随しないところで何が課題になるのか。

【回答】 竹林学校教育課長

- ・ 体力向上の支援員が授業の支援を行うようしているが、子供達が自分に課題意識を持って取り組んでいけるような形をこれからももっと考えていかないといけない。

【質問】 井田委員

- ・ 不登校、問題行動などという部分でもいろんなことで働きかけをしてきているおかげで、数字が減っているが、実際に不登校の子供が何人かいると数字に出ている。その辺対応はどうなっているか。

【回答】 上垣子どもサポートセンター所長

- ・ 不登校対策ということで、毎学期に実施する不登校調査を元に各学校訪問を行い、学校関係者と子供達の状況や実態を共通理解すると共に連絡、連携の維持をして学校と登校出来る環境づくりを行っている。

【教育長】

- ・ 不登校について件数が少ないと言ってはいけない。もっと減らさないといけない。いじめの件数も0件や1件となっているが、裏側はもっといろいろな問題があると思われる。

【意見】 太田市長

- ・ 教育長の話にあったようにいじめや不登校、問題行動など確かに減っていると思うが見えない部分が多々ある。見えない陰湿な部分ももっとあると思われる。そういったことを解決することによって不登校も減っていくのではないかな。
- ・ また、体力について、学校だけでなく家庭環境の中でもっと運動してもらう

ような、そういう家庭との連携も密にしなければならない。

(2)五條市学校適正化の進捗状況について

【報告】 松井教育総務課長

【意見】 井田委員

- ・アンケートの結果と実際にやろうとした時の親の思いには差があると思う。頭ではクラス替えが出来る学校で、人数もいてということで統合に賛成だが、実際にどこに学校が出来るかという時に反対となる。そういう親の気持ち踏まえて考える必要がある。

【意見】 堀内教育長

- ・色々な意見が出るだろうと思う。しかし子供達の教育の環境がどうあるべきなのかと考えた時に、課題がやはりある。複式にならない学校となる学校というのが五條の中では出てくる。小学校では、人数が少ないから丁寧に教えてもらえ学力がついてという事例もあるが、中学校へ行くと逆にある程度規模がある学校の方が結果が出るというデータがある。だから子供達にどんな教育環境を与えてやるのかっていう点では、やっぱり反対があろうとどんな意見があろうと私達教育預かっている者が1つの決断をしなければならない。
- ・学校規模の適正化の検討に当たっては保護者や地域住民の参画、子供のいる親御さんらの声をじっくり聞くことが大切である。

【意見】 太田市長

- ・いろんな反発は当然あると思うがきちんと議論し、きちんとした方向性を見出してそれで進めていって欲しい。相当なプレッシャーはかかりますが、がんばって頂きたいと思いますのでよろしくお願いします。

【意見】 大西委員長職務代行者

- ・子どもの数が減っているということは、感覚的なところでは、分かっていたつもりだが、実際の推移をみるとこれは想像以上だということが分かる。データをしっかり提示して説明すれば納得は難しいけれども理解はしてもらえるのでないか。拙速にやり過ぎてしまうところじれたりもするだろうから、まずは理解してもらおう努力をして頂きたい。私も出来ることはさせていただく。

【意見】 井本委員

- ・私も難しいなというのを本当に正直に気持ちとしてはあります。
人数が多い中で勉強している子供達に、果たして小さい少人数の中で勉強してきた子供たちが勝てるのかというふうなことも考えていくと、力が蓄えられないのかなという気もする。老年の方に聞くと母校がなくなったら困るという方が多いが、子供を持っている親に聞きくと、都会に行った時に子供がやっていけるのかなというところが心配という声がある。

【意見】 堀内教育長

- ・生徒数の少ない中学校は教科の先生の数が、全部の教科を教える数には満たない。専門性という点から見ると、中学校は生徒数が少ない方が不利である。本当に子供達に平等に教育を与えるというのはどういうことか考える必要がある。
- ・また、正規の先生の数も少なくなる。一方ではすべて正規の先生だが、一方ではそうではないとなれば、平等な教育ではない。

(3)五條高等学校賀名生分校魅力化推進事業について

【報告】 松井教育総務課長

【意見】 太田市長

- ・五條高校賀名生分校を旧来の姿に戻したいというのがもともとの考えである。また、高齢化により若い人がおらず、これから次の世代がいなくなる。日本一の柿の生産地と言われているが、大変これから厳しい状況に至っていくと思われる。全国から人を集めて、1割でも移住定住に結び付けられたらいいのではないかな。いろいろクリアしなくてはならないことがたくさんあるが、みなさんの意見を聞きながらすすめていきたい。

【補足説明】 堀内教育長

- ・進捗ですが、高校としての単位やカリキュラムなど案が出来上がっている。今後は、いろいろな人達との協力体制をどう作っていくのが課題になる。

【意見】 井田委員

- ・現状において通学しているような生徒さんの行く所があるかどうかということが心配。今は必ずしも農業をしている子が来ているわけでもない。また、西吉野などでは花木の後継者がいないということも問題となっている。柿

だけではなく、花木の後継者の問題も考えてほしい。

4 その他

【その他】 福塚公室長

- ・今日の会議の記録について、議事録に市長と会議で指名をされたものが署名をするということになっておりますが、市長とどなたに署名して頂いたらいでしょうか。事務局の案でよろしいということであれば、1人は市長に署名して頂いて、もう1人は委員長にさせていただくということでもよろしいですか。

【意見】 太田市長

- ・これから何回も会議をしないといけないのだから、順番で決めたらどうか。
寒川委員長→大西委員長職務代行者→井田委員→井本委員→堀内委員(教育長)

【報告】 福塚公室長

- ・次に、前回の会議でご質問いただいた五條市におけるいじめ問題の体制について報告させていただきます。

【報告】 上垣子どもサポートセンター所長

- ・いじめが原因で重大事態が起こったと考えられる場合に第三者委員会を設置するとしているのは、奈良県下では奈良県、奈良市、橿原市の3団体となります。その中で条例を制定しているのは奈良県と橿原市です。
- ・今後本市でも条例の制定、いじめ防止基本方針の策定及び第三者委員会の人選を検討しておくべきだと考えます。

【総括】 太田市長

- ・本日意見交換した内容は、本当に子供達にとって大変重要なことである。理解が得られるよう誠心誠意がんばっていけば一定の成果がでる。議論を重ねて、市民の皆さんにもきちんと報告し、理解していただくそういう体制をとっていきたい。更なるご支援またご協力をお願い申し上げましてご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。